

## ワインクラブ通信

圧巻の  
パーティーサイズ！

フルボトルでも美味しかった！  
熟成途上の大型瓶、  
果たして国内に残っているのか？

今月の逸品

## ダイヤモンド・クリーク グラヴェリー・メドウ 3ℓ 瓶

【タイプ】 赤・辛口  
【生産地】 アメリカ カリフォルニア州 ナパ・ヴァレー  
【生産者】 ダイヤモンド・クリーク  
【品 種】 カベルネ・ソーヴィニヨン  
【収穫年】 2004年

3,000ml ¥120,000+税

「もし誰かにテロワールを表現しているワインを開かれたら、旧世界からドメス・ド・ラ・ロマネ・コンティを、そして新世界からはダイヤモンド・クリークを選ぶ」（ニール・マーティン）。ナパ・ヴァレー3大マウンテンのひとつ、ダイヤモンド・マウンテン。山のカベルネ・ソーヴィニオン生産者としてその筆頭に挙げられるのがダイヤモンド・クリークのシングル・ヴィンヤードである。グラヴェリー・メドウは西側に位置する畑のワイン。カルトワインとは正反対の質感で長期熟成後にその真価を発揮する。生産量は数100ケース。日本入荷も限られた数量である中、さらに希少な3ℓ瓶詰品。

いつも広島アンデルセンをご利用いただきありがとうございます。  
これまでの品揃えを大切にしながらも、ラベルがステキだったり、季節らしさを感じるワインなど、見て楽しい、飲んでおいしい、そして、飲んだ後にちょっと詳しく知りたくなる、そんな新しい発見に出会えるようなワインをご用意しています。

大人の  
ワイン！  
繊細な味がわかる

白ワインといえども冷やしすぎないで！  
クリームやバター風味の料理に◎

今月の一品

## クロ・デ・リュス リュス・ダルジャン

【タイプ】 白・辛口  
【生産地】 フランス ボルドー地方 ソーテルス地区  
【生産者】 クロ・デ・リュス  
【品 種】 セミヨン70% ソーヴィニヨン・ブラン30%  
【収穫年】 2017年

750ml ¥3,000+税

「Lunes d'Argent」の名のとおり「銀色の月」がデザインされたラベルが目印。ボルドーベスト5に入る辛口白ワインとして有名なドメス・ド・シュヴァリエがソーテルス（貴腐ワインの産地）で辛口ワイン造りに挑戦した。2012年のファーストヴィンテージにおいて、いきなりパーカーポイント91点、ワインスペクテーター誌でも91点を獲得した。洋ナシ、白桃、オレンジのアロマにハチミツやバターのニュアンスが隠れている。アフターは細く長く上品、ふくよかで品格がある。手摘み収穫と厳しい選別、ソフトな搾汁、絶妙な樽加減が味わいの調和をもたらしている。ワインアドヴォケート誌90点。

## 【スタッフリレー通信】

## 人は乾杯の数だけしあわせになれる

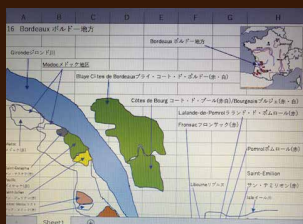
広島アンデルセン パンケットサービス 新本 悦子

私がワインを好きになったきっかけは社会人になってすぐの上司のすすめ。濃い赤ワインが大好きだったこともあり、自然と私も濃い赤ワインが大好きに。つい最近までずっと赤ワイン一筋でしたが、ワインの勉強を始めるとどんどん世界が広がり、最近は白ワインも好きになりました。そんな私が先日ワインエキスパートの試験を受けました。受けるきっかけになったのはお家時間が増えたこと。ただ、自粛期間で外にも出ることができない、バーにも行けない、冊子だけでの勉強では理解を深めることができない。そんな中出会ったのが、オンラインでの講座。事前に100ml程度のワインが数種類送られてきて先生の話を聴きながら一緒に飲む。チャットで質問ができて、とても画期的。時には、フランスの生産者とオンラインでつないで実際に葡萄畑を見ながら話を聞くことができて、旅をした気分ワインを味わえる。なんて素敵なんだ！本当に楽しみながら勉強することができました。「人は乾杯の数だけしあわせになれる」という言葉がある。私はこの言葉が大好きです。オンライン飲み会もいいけれど、やっぱり実際に会って乾杯ができるって素晴らしいと改めて感じる今日この頃。早く気軽に「乾杯」ができる日が来ることが願います。これからも広島アンデルセンのお客様とたくさん乾杯ができるよう、自分自身をもっと高めていくのがこれからの目標。みなさまにお会いできる日を楽しみにしています。

## Column

## 「マインドマップ」

エグゼクティブソムリエ 真森一之



ワインスクールの資料作製で悩まされるのがワイン産地地図だ。ネット検索や専門書からコピーすれば簡単だが、著作権の問題が絡むため難しい。ありがたいことに社内のデザイナーから地図アプリを教えてもらい、オリジナルワインマップが可能となった。すでに一冊の本が出せるくらいの分量となっている。もともと子供の頃から地図作成は得意だ。完璧なアナログ人間と言える。始まりは社会科の先生から地図で覚えるコツを教わったのがきっかけだ。活用できる場面が多く、用途が幅広いから他の教科でも役に立つという。現在はアレンジして仕事でも活用している。地名→ワイン→料理→お客様・・・と横線を伸ばして記憶する方法が身に付いた。同様の手法で「味の記憶」や「話材捻出」にも役立っている。「これってマインドマップじゃないの？」と知人から教わった。40年前にイギリスの心理学者「トニー・ブザン」が提唱したのがマインドマップだそうだ。本来はキーワードを中央に置き、そこから放射状にキーワードを広げていく。思考を整理して発想を豊かにし、記憶力を高める効果があるようだ。このように効果を解説してくれると、やる気が出るもの。マインドマップによる「思考の見える化」で、話が脱線しても元に戻れるようになった。私の認知症予防に役立つかもかもしれない。